

施策

安全でおいしい水を安定的に給水する

担当部局

水道局, 文化産業局



【安全・安心】 めざまちの姿 常に安全でおいしい水が届いている

市の基本方針

- 水道水の水質向上に努め、安全で快適な水道水の供給を通して、信頼される水道をめざします。
- 適正規模での施設運用に加え、早期復旧が可能となる災害に強い施設整備などを行い、十分な量の水道水を安定して供給します。
- 倉敷の水道を持続・発展させるため、水道施設や組織を健全な状態に保ち、財務体質を強化して、水道事業の健全経営を図ります。
- 公営企業の社会的責任を果たすため、民間事業者の育成や給水にかかわる環境対策を推進するなど、住み良い環境と豊かな地域づくりに資する取組を行います。

数値目標

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
節水を心掛けている人の割合	↑	水道展アンケート調査で、「日頃から水を大切に、節水に心がけていますか。」という設問に対して、『よく心がけている』『時々心がけている』と回答した人の割合。
<p>98.0 % 96.0 94.0 92.0 90.0 88.0 86.0 84.0</p> <p>H21 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2</p> <p>●実績値 ■目標値</p>		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、変わっておらず、前年度に比べ、2.7ポイント下がった。</p> <p>(Ⅱ) 9割以上の方が節水を心がけているが、20歳未満で「よく心がけている」と回答した割合が15ポイント減少した。</p> <p>(Ⅲ) 全体として高い水準を維持しているが、目標値には達していないため、さらなる広報活動が必要と考える。</p>

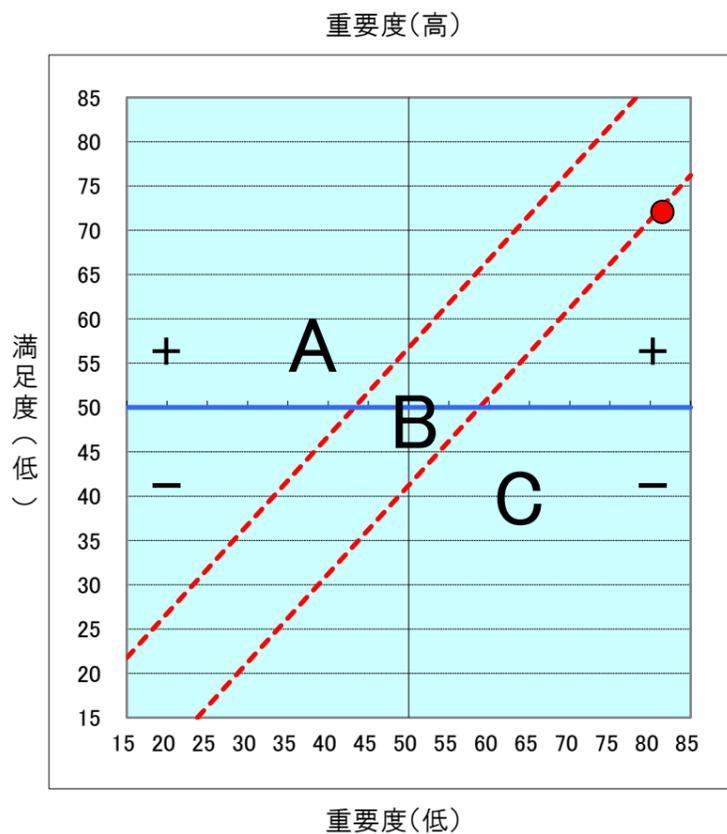
まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
水道水を飲料水として直接飲んでいる人の割合(直接飲用率)	↑	水道展アンケート調査で、「ご家庭ではどのようにして水道水を飲んでいらっしゃいますか。」という設問に対して、『そのまま飲んでいる』『冷やしたり、沸騰させたりして飲んでいる』『お茶やコーヒーなどで飲んでいる』『浄水器を利用して飲んでいる』と回答した人の割合。
<p>97.0 % 96.0 95.0 94.0 93.0 92.0 91.0 90.0 89.0 88.0</p> <p>H21 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2</p> <p>●実績値 ■目標値</p>		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、2.1ポイント上がり、前年度に比べ、1.1ポイント上がった。</p> <p>(Ⅱ) 「そのまま飲んでいる人」は25.8%で、昨年度より0.3ポイント上がった。「浄水器を利用して飲んでいる」と回答した人は17.5%で、昨年度より0.3ポイント上がった。</p> <p>(Ⅲ) 目標値に達し水道水に対する信頼性が高まっていると考えられる。</p>

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
水道水がおいしいと思っている人の割合	↑	水道展アンケート調査で、「倉敷市の水道水はおいしいですか。」という設問に対して、『おいしい』『まあまあおいしい』と回答した人の割合。
<p>80.0 % 60.0 40.0 20.0 0.0</p> <p>H21 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2</p> <p>●実績値 ■目標値</p>		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、0.2ポイント下がり、前年度に比べ、2.2ポイント上がった。</p> <p>(Ⅱ) 「おいしい」と回答した人は26.6%で昨年度より2.5ポイント上がり、「まあまあおいしい」と回答した人は26.1%で、昨年度より0.3ポイント下がった。</p> <p>(Ⅲ) 依然として、約半数の市民が「おいしい」と感じていないことから、濁度や臭気などのきめ細かい水質管理と広報活動が重要と考える。</p>

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度決算額(千円)
	水源水質監視体制の強化	(Ⅰ) 安全でおいしい水道水の安定した供給に必要な水源水質の変化に対応した浄水処理を実施するため、水源水質の状況を適切に把握することを目的として実施した。 (Ⅱ) 定期的に高梁川上流域のカビ臭調査及び検査を実施し、その結果を浄水処理に反映させることで、水道水のカビ臭物質濃度を低減させ、おいしい水道水を安定供給することができた。 (Ⅲ) 安全でおいしい水道水を安定して供給するために、水源水質の状況把握を継続して実施する。	45,640
	水源林管理事業	(Ⅰ) 高梁川上流地帯に整備した水源林を健全な状態で維持して、水源かん養機能等を高度に発揮させ、良好な水資源を確保することを目的として実施した。 (Ⅱ) 計3カ所90.9haの水源林において、間伐、撫育等の保育・管理を行った。 (Ⅲ) 森林の生育状況に応じた適切な管理が必要であり、継続して実施する。	4,733
	水道施設の耐震化の推進事業	(Ⅰ) 水道施設の耐震化を目的として実施した。 (Ⅱ) 耐用年数が経過していく口径50mm以上の配水管、基幹管路及び加圧施設の更新や新設を計画的に実施している。平成30年度末時点で、基幹管路の耐震適合率は38.40%から38.97%へ、前年比0.57ポイント上がった。 (Ⅲ) 優先度が高い管路・施設から順次耐震化を図る。	2,496,771
	真備浄水場更新事業	(Ⅰ) 老朽化した真備浄水場を適正規模で、かつ最適な方法により更新することを目的として実施した。 (Ⅱ) マンガロ過機を改修する工事(工期は平成29年11月から平成30年11月まで)を施工済。 (Ⅲ) 令和元年度以降も基本設計に基づき、継続して施設更新を実施していく。	97,200
	流量監視システム構築事業	(Ⅰ) 有収水量の分析、改良工事の評価及び災害・事故時の迅速な対応への活用を目的として、主要配水池及び主要配水管の流量をリアルタイムで監視・データ化する。 (Ⅱ) 倉敷、玉島地区において、路上局3カ所を設置し水道GIS(地理情報システム)に情報を追加した。 (Ⅲ) 主要な配水管の流量を監視するための路上局を順次配備し、目的とする評価、対応を行っていく。	39,269
	水道料金等収納率の向上対策	(Ⅰ) 水道料金等の収納率向上を目的として実施した。 (Ⅱ) 平成30年度末時点で、収納率は96.62%から96.49%へ、前年度比0.13ポイント下がった。 (Ⅲ) 負担の公平性を図り、安定的な給水収益を確保するため、継続して実施する。	—

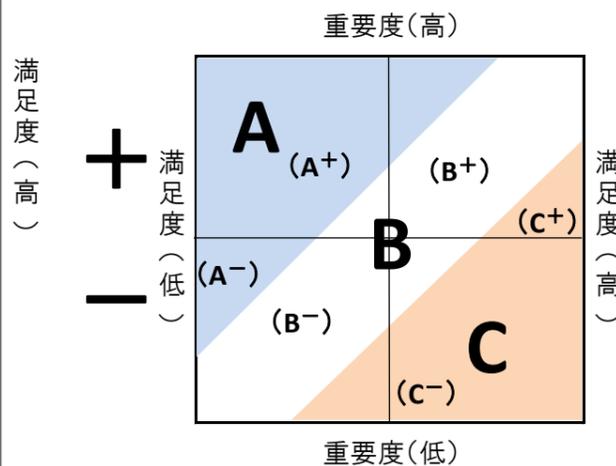
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
C ⁺	72.05	81.53

●重要度に見合う以上の満足度が得られている(C)
●重要度が平均値より高い(+)

【グラフの見方】



A: 重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B: 重要度に見合った満足度が得られている領域
 C: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域
 ※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)
 +: 重要度が平均値より高い部分
 -: 重要度が平均値より低い部分
 A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻
 A⁺: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

課題

- 水質事故やゲリラ豪雨などにより、河川水の水質が急激に変化するおそれがあるので、水源水質の状況を的確に把握し、適切な浄水処理を行う必要がある。
- 水道施設の優先度と併せて、水需要を考慮したうえで、効果的な管路更新や適正規模での施設更新を検討する必要がある。
- 水道料金等収納率向上について、収納率の向上が鈍化傾向にあり、滞納整理についても一層の事務見直しの検討が必要である。

今後の取組み方針

- 「水質検査計画」及び「水安全計画」に基づく水質管理を実施することで、水道水の安全性に万全を期すとともに、適切な浄水処理を実施することでおいしい水を安定供給する。
- 災害時でも安定給水を継続的に確保するため、効果的な水道施設の更新と耐震化を計画的に進める。
- 現有人員での業務範囲や、業務手法の改善についての検討を行い、一層の経営健全化を図る。